

# 当り新

刊日  
社田野常行發  
九五町南町平縣島福  
次一隆 藤 伊 八 行 發  
一 港 古 濱 名 小 島 島 福

刊夕日三月五  
一ヶ月 三十錢  
一 部 二 錢  
廣告料 一行五十錢  
場所指定 十錢増  
日曜祭日翌日休刊

## 故中村先生の福德 財寶はついて廻る!

中村先生が小名濱に醫院法には將に敬服の價値があつた。先生は開業して以來三十年、其の財寶は實に五十万円と稱さる。先生は昨年某保險會社に均約一萬七千圓弱となる。一回で一萬圓がこつた。夫れも生活費を除いた純益は、先にも四千五百圓金である。小名濱町で先生の一年間、先にも先生の後を金が付きの盆金一萬七千圓の遺産をどうつてゐる。有する、所謂金持として指資之神に追廻されて朝から居る家が果して何軒か晩迄働いても満足な飯さいるだらう、斯く觀じれば、嗚呼、何時世に何とやら、ば中村先生の醫者としてのまじい事だらう。技術と經濟的識見並に利殖

## 講習を受ければ 底船長になれる

五月月中旬より  
江名漁業組合で  
五月月中旬から三週間に亘り、石城郡水産會主催で船員養成講習會が開かれる。場所は江名漁業組合の二階であるが、郡内の船員で二年以上船に乗り組んでゐる人

## 揚網漁業の計画

豊間村漁業組合にて  
豊間村漁業組合では今有望視されつゝある揚網漁業を計画して、農林省に漁業共同施設事業奨励金下附申請中であるが、不日認可されるものと思はれる。石炭助金は農林省法規中の漁業及び漁具の設備に下附の條項中にあり認可されれば一萬圓に付き四千圓の割合で下附することになつて居る。

## 小名濱登記所 四月分件数

小名濱登記所の四月分登記件数は次の通りである。  
不動産船舶 三三七  
船舶 一七七九  
商會社 一  
産業組合 一  
農事實行組合 十五

## 梨本宮殿下 御令旨便達の 紀念日

本日消防協會總裁梨本宮守正殿下御令旨便達の紀念日なるを以て全各地の消防組員伍長小頭一同午後一時から奉禮式を行ひ其れが終ると火防宣傳を行ふ。  
流行のチブス  
小名濱にも發生  
小名濱町中津海産物商小名濱魚肥組合長馬庄上之助場が人夫を雇ひ入れてキレ

## 中村三良先生 各種團體に寄附

中村三良氏遺言とし  
各種團體に寄附  
小名濱小學校 三百圓  
小名濱消防組 五百圓  
青年團 五百圓  
水野技藝女學校 參拾圓  
幼稚園 參拾圓  
軍人分會 五拾圓  
警察會 參拾圓  
中町々内 貳拾圓  
御寺(自性院) 百圓  
窮民救濟會(役場内) 五拾圓  
青年訓練所 參拾圓  
以上七百五拾圓

## 小名濱の美化運動 五月七日一齊に

小名濱町では五月七日美化運動として町民が一齊に下水や其の他の不潔箇所を掃除することになった。海岸その他ゴミ捨場は役場が人夫を雇ひ入れてキレ

## 豆ニユース

豊間村薄儀の湖井神社は今日七日祭禮、同村沼の内諏訪神社は八日、同じく大字豊間の諏訪神社は十五日各々お祭である。兩天の時は追て期日を定めると。  
豊間村では毎月一日を道路愛護デーとし村長初め村民全部が道路の掃除につとめてゐる。  
左記江名信用組の代表者は来る五日の夕方出陣し席の爲本日午前出發した。  
太清左衛門氏、吉田善一氏、石井主事、新井會社馬目書記

## 天氣豫報

五月三日  
小名濱測候所發表  
今晩—北西の風、晴。  
明日—南東の風、晴。  
明朝は凍害のおそれ。  
八丈島—曇、石巻—晴。  
新潟—雨。

## 濱だより (二日分)

小名濱(魚市場調査)  
魚名 漁獲高 單價割  
平目 八貫 廿八  
アサ 十五貫 廿  
石持 百五十貫 五五五  
ノド 二百貫 七七八  
ガラ 八十貫 八五十一  
メ拔 千五百貫 五十六  
入港數  
底引船 十七  
アグリ船 十  
カンコ船 六  
中之作(本廠商店調査)  
メヌケ 二百貫 七割  
タラ 千貫 一割五分  
タコ 二百貫 三割  
ゴロ 二百貫 四割五分  
メダ 二百貫 五割  
ヤナギ 百貫 十二割  
マコ 五十貫 十割  
アカジ 二百貫 四割五分  
サガ 三千本 四錢  
ナゴ 六千本 十錢五錢  
入港船 底引十八艘

## 江名濱(鈴喜商店調査)

アカデ 千五百貫 八割  
タラ 五百貫 一割七分  
メヌケ 三百貫 六割五分  
ノドゴ 百貫 四割  
メダ 五百貫 五割  
タコ 二百貫 二割五分  
メス 七百貫 四割五分  
銀鯨 五百貫 四分  
入港數 底引船 十一艘

### 舊四月七八九日

## 釜戸の諏訪様

本年七年目に一回の大祭典と大祈禱

やつこ道中の奇観は壯大無比

### 二、御磯出大祭儀式の大要

供奉者は上釜戸、中釜戸、松小屋の舊三ヶ村其の他田部、初田及泉天神前で行道一同威風堂々古来の格を以て社内に振込み御磯出の祈禱を行ふ。

舊九日の笠被の祭には古式に従ひ大古より宮本なる中釜戸地内に於て土堤廻りの式と稱し奴子一同神威儀式に依り奴子を振り廻り八百名一同の行道が最後に神社へ奉進する。

### 一、松小屋 纏、鐵砲、奴子、警固、並に使者

使者は陣羽織を着け諏訪神社使者の大字を記號せる旗幟を負(乗馬にて)渡祭前々日より下川迄夫々間合せの爲め幾往復す。

二、中釜戸 纏、鐵砲、奴子、警固、神號旗、龍旗、五色旗(各三流宛)鎌鏢、太刀、其他柳大神輿、奏樂者、神官(乘馬)

三、上釜戸 纏、鐵砲、奴子、警固、其他俗に殿様、家老と稱し十五六歳以下の子を以て之れに充て形、粧乗馬をさせ但殿様一名、家老一名にして何れも家柄の長男を選ぶ例なり。

### 三、渡御地迄の行筋

舊八日は御磯出の大祭で宮本なる中釜戸を出發、松

舊七日の笠被祭には前記の行道一同威風堂々古来の格を以て社内に振込み御磯出の祈禱を行ふ。

舊九日の笠被の祭には古式に従ひ大古より宮本なる中釜戸地内に於て土堤廻りの式と稱し奴子一同神威儀式に依り奴子を振り廻り八百名一同の行道が最後に神社へ奉進する。

舊七日の笠被祭には前記の行道一同威風堂々古来の格を以て社内に振込み御磯出の祈禱を行ふ。

舊九日の笠被の祭には古式に従ひ大古より宮本なる中釜戸地内に於て土堤廻りの式と稱し奴子一同神威儀式に依り奴子を振り廻り八百名一同の行道が最後に神社へ奉進する。

はリスク

**資生堂**

町濱名小  
番七四一話電

長品賣に勝る商略なし

**釜屋商店**

警城セメント特約代理店

警城平町五丁目  
電話九番九九番  
東京振振貯金口座一〇九五六

淋病ノ靈藥

**サコメ球**

發賣元 開陽堂藥舖

藥劑師 松崎 勤

小名濱銀座街

齒科一般  
口腔外科

**木田科齒醫院**

小名濱町電話一〇五番

父中村三良病氣ノ處十日午前  
五時四十六分死去致シ候ニ付  
此段御通知申上候

追而葬儀ハ來ル四日午後二時小名濱町  
自性院ニ於テ佛式ヲ以テ告別式ヲ執行  
仕々候

昭和十年五月二日

親戚總代  
中村 俊子 稔  
中村 昇  
丸山 柯太郎  
市原 卯太郎  
青沼 錫太郎  
白川 彌源 太  
小野 晋平  
福尾 伊太郎  
羽岡 平三郎

友人總代  
醫學博士  
中村 俊子

注文靴

5.00 以上  
1.00 以上  
1.70 まで

平屋靴製造店

小名濱町(郵便局東隣)

内科・外科  
小兒科  
花柳病科

**平川醫院**

江名町 電話二六

**募 集**

編輯部 一名  
營業部 二名

編輯部員は活動的な青年を  
希望し營業部員は中年者を  
希望す。

希望者は手紙にて過去の  
経歴を書き送り下さい。  
面會日通告す

刊日 常磐新聞社

**社會式株業工産水城磐**